

令和 8 年 3 月

令和 7 年度 学校関係者評価委員会報告

学校関係者評価委員会

片山 裕治 (委員長)

岡本 邦子 原田 美千代

野間 紀子 土本 広美

**【アンケート項目変更】**

今年度、「関係者等アンケート調査」の共通評価項目が削除され、学校独自評価項目だけになりました。そこで城山小学校では、これまでの独自評価項目を見直し、重点目標達成のための基本方針 1～4 について項目を立て、児童は 17 項目と記述回答 3 項目、保護者と地域は 10 項目に整理しました。また、先生方が行う「学校自己評価」もこれに倣った項目に一新されました。

※児童と保護者のアンケートは 3 番からの通し番号になっています。

**【アンケート調査の期日と回答率】**

令和 7 年 11 月 14 日を起点として実施しました。以下、回答者数・回収率です。

児童 (5・6 年生) 136 名(回収率 93.7%)

保護者 326 名(回収率 71.4%)

地域 21 名(回収率 46.6%)

**【アンケートの方法と集計】**

WEB アンケートツールによる自動集計機能活用を基本にしましたが、アンケート用紙への書き込みにも対応しました。

尚、本報告書作成には、児童・保護者・地域のアンケート集計の結果と共に、「城山小学校 自己評価報告書」(教員によるアンケート)も参考にしました。

**【本報告書での表記】**

アンケート回答の

1「とても思う」と 2「思う」を肯定的回答

3「あまり思わない」と 4「思わない」を否定的回答

5「分からない」は不明回答と表現することにしました。

## 基本方針1 児童が主体的に学び、新たな知を創造する学習活動の構築

☆児童は、学校生活は楽しく充実して学んでいるようだ。  
☆先生は熱い思いを持ち、児童への期待は大きい。校内研究の更なる充実を期待する。  
☆児童が思う理想の学校は、学校が理想とする学校像・児童像。

### <児童の様子>

児童自身が思う学校生活や学びの様子は肯定的回答が高く、楽しく生活し、学びは概ね充実していることがうかがえる。以下、主な項目の肯定的回答の割合。

「学校が楽しい」：90%、 「学ぶことが楽しい」：82%、

「問題を解決するまで、あれこれ試している」：76%

「タブレットを有効に活用している」：93%、

「振り返ることで、何を学んだのかがよく分かる」：87%

### <教員の思い>

以下では、先生お一人お一人の教育実践の情熱と期待が現れたように感じる。一方で、児童が自らの姿を顧みた結果と多少の差異が残る。今後も校内研究（研究テーマ「自立した学びの育成」）を深め、実践を重ね、更なる理想とする授業を追究してほしい。

教員と児童の肯定的回答の比較

(教員-1、児-5)

「あれこれ試している」(=重点目標の「とにかくやってみる」)

教員： 100 %、 児童： 76%

(教員-3、児-8)

「振り返りで、何を学んだかがわかる」(=「せたがや探究的な学び」の柱)

教員： 92 %、 児童： 87%

(教員-4、児-9)

「自分の考えを伝えようとしている」

教員： 96 %、 児童： 76%

### <理想の学校>

「どんな学校をつくりたいですか、そのためにどんな力をつけたいですか」への自由記述の中に、「先生から示されたことだけでなく、自分で考え企画して行動する。」があった。児童は「自ら考え、主体性を持つことが理想の学校」と捉えたようだ。学校が理想とする学校像・児童像を、児童が表現してくれた。

基本方針1では、学校がめざす方向と具体的な取組に高い評価を得た。次年度もぜひ継続し、更に発展させて行って欲しい。

【基本方針1】 児童が主体的に学び、新たな知を創造する学習活動の構築				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・個に応じた最適な学びの充実</li> <li>・主体的に取り組む学習指導の夫</li> <li>・せたがや探究的な学び推進</li> <li>・ICTの活用の推進</li> </ul>				
対象と 番号	内 容	肯定 (%)	否定 (%)	不明 (%)
児-3	学校が楽しい	90	7	3
児-4	学ぶことが楽しい	82	14	4
保-3	お子さんは学校生活を楽しんでいる	93	5	2
児-5	授業中、問題を解決するまで、あれこれ試している	76	18	6
教員-1	児童は、授業中、問題を解決するまで、あれこれ試している	100	0	0
保-4	お子さんは、学習で、問題を解決するまで、あれこれ試すようになってきている	66	29	5
児-6	タブレットを有効（調べる・まとめる・わかりやすくするなど）に活用している	93	4	3
保-5	学校はお子さんにタブレットを有効に使わせている	69	25	6
児-7	学んだことが自分の将来につながっていると感じている	75	15	10
教員-2	児童は、学んだことが自分の将来につながっていると感じている	72	12	16
児-8	振り返ることで、何を学んだかがよく分かる	87	9	4
教員-3	児童は、振り返ることで、何を学んだかがよく分かる	92	8	0
児-9	授業中、自分の考えを友達に伝えようとしている	76	21	3
教員-4	児童は、授業中、自分の考えを友達に伝えようとしている	96	4	0
保-6	お子さんは家庭で自主的に学習している	56	43	1
保-7	学校は、保護者や地域の声や願いにこたえる教育活動を行っている	81	9	10
地-1	学校は、保護者や地域の声や願いにこたえる教育活動を行っている	90	5	5
教員-5	学校は、保護者や地域の声や願いにこたえる教育活動を行っている	88	8	4

## 基本方針 2 集団作りを通じた協働的な教育活動の推進

- ☆ 児童は行事や委員会活動等に協力的に取り組み、集団の一員としての役割意識が育っている。
- ☆ 縦割り活動等を通して、上級生が下級生を思いやり行動する姿が定着している。
- ☆ 学校行事は児童・保護者・地域・教職員から高く評価され、協働的な教育活動が根付いていることがうかがえる。

### <協働的な集団づくりの現状>

児童アンケートでは、「学習や行事が楽しく進むように協力している」「見通しをもって自分の役割に取り組んでいる」と肯定的に回答した児童がいずれも約9割に達し、集団の中で役割を意識しながら協働的に活動している様子がうかがえる。また、「上級生の経験を生かして下級生のために考えている」とする回答も8割を超えており、縦のつながりを意識した関わりが育っている。自由記述においても「企画」「交流」「委員会」「他学年」「全員」などの言葉が多く、児童が学校を自分たちでより良くしていこうとする主体的な姿勢が見られる。保護者・地域からも学校行事への高い評価が寄せられており、協働的な教育活動が学校内外に定着していると考えられる。

### <自己有用感の視点から見た課題>

一方で、「自分は役に立っていると感じる」と肯定的に回答した児童は68%にとどまり、22%の児童が否定的回答であり、不明回答とする児童も10%見られる。教職員の同項目に対する肯定的回答が96%であることと比較すると、教職員が把握している児童の姿と、児童自身の実感との間に差がある可能性が考えられる。集団の中で一定の役割を担い、協働的に活動しているにもかかわらず、それを「自分は役に立っている」と実感できていない児童がいることは、今後の集団づくりにおいて留意すべき点である。特に、声に出して意見を言うことが得意でない児童や、目立つ役割を担っていない児童については、自己有用感を持ちにくい状況が生じている可能性も考えられる。

### <一人一人が生きる集団づくりに向けて>

今後は、当番活動や係活動、委員会活動等における一人一人の役割や貢献をより可視化し、努力や過程を丁寧に認める声かけを意識的に行うことが重要であろう。自由記述において「頑張ったね」「応援」「励まし」「褒め言葉」といった言葉が多く挙げられていることから、児童は周囲からの承認や励ましによって意欲を高める傾向が強いことがうかがえる。

全ての児童が「自分もこの集団の大切な一員である」「自分の存在が誰かの役に立っている」と実感できるよう、役割の工夫や関わり方の多様化を図りながら、互いのよさを認め合う集団づくりを一層推進していくことが望まれる。

【基本方針2】 集団作りを通じた協働的な教育活動の推進				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・特別活動、特別の教科 道徳の充実</li> <li>・目標や意欲、興味関心をもち、粘り強く友達と協調して取り組む力や姿勢の育成</li> <li>・自分の役割を自覚し、互いのよさを認め、生かし合いながら協働して集団の目標を達成する教育活動</li> </ul>				
対象と 番号	内 容	肯定 (%)	否定 (%)	不明 (%)
児-10	みんな（クラス・委員会・ともあそびなど）の中で、自分は役に立っていると感じることがある	68	22	10
教員-6	児童には、みんな（クラス・委員会・ともあそびなど）の中で、自分は役に立っていると感じることがある	96	0	4
児-11	上の学年から助けてもらった経験を生かして、下の学年の学校生活がより良いものになるよう考えている	82	14	4
児-12	みんなと一緒に学習や行事が楽しく進むように協力している	89	6	5
児-13	みんなと協力して見通しをもって自分の役割（当番・係活動・委員会活動・クラブ活動・ともあそびなど）に取り組んでいる	90	8	2
教員-7	児童は、みんなと協力して見通しをもって自分の役割（当番・係活動・委員会活動・クラブ活動・ともあそびなど）に取り組んでいる	92	8	0
保-8	学校行事はお子さんにとって達成感がある	93	5	2
地-2	学校行事の内容は充実している	95	0	5

### 基本方針3 一人一人に応じた教育活動の推進

☆児童の多くが、安心して学校生活を送り、主体的に学習できている。  
☆言葉遣いへの意識に変化があるようだ。児童同士の関係性や一人一人の心情の変化に注視していく必要があるかもしれない。  
☆安心して思いを伝えたり、相談したりできる環境づくりを更に進める必要があるのではないだろうか。

<児童向けアンケートより>

「自分の気持ちや困っていることを学校で聞いてくれる人がいる」の肯定的回答はほぼ9割、「自分でやり方を選んで学習や活動に取り組んでいる」は8割強と、いずれも肯定的回答が8割を超えており、多くの児童が安心して学校生活を送り、主体的に学んでいることがうかがえる。

「言葉の使い方に気を付けている」の肯定的回答は80%、昨年度の89%から減少した。相手を思いやる気持ちに変化があったのか、或いは、昨年より言葉遣いを意識するようになったための自戒なのか。児童同士の人間関係の様子と共に、児童一人一人の心情の変化にも注視していく必要があるかもしれない。

<相談しやすい学校>

保護者向けアンケートでは、「はなしっこルームが設置されていることを知っている」の肯定的回答は9割を超える高評価である。一方「相談のしやすさ」の否定的回答が2割ある。はなしっこルームの開設時間や予約等、運営方法の見直しが必要なのかもしれない。

基本方針3「一人一人に応じた教育活動」の基盤は整いつつあるものの、今後はより一層安心して思いを伝えたり相談したりできる環境づくりを推進してほしい。

【基本方針3】 一人一人に応じた教育活動の推進				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 個に応じた最適な学びの充実</li> <li>・ 複数教師による多面的な児童理解と共有</li> <li>・ 不登校児童へのきめ細やかな支援の充実</li> <li>・ いじめに対する早期発見、未然防止のための組織的な対応</li> <li>・ 関係機関との連携</li> </ul>				
対象と 番号	内 容	肯定 (%)	否定 (%)	不明 (%)
児-14	自分が感じていることや困っていることを、学校で聞いてくれる人がいる	89	6	5
保-9	学校は、子どものことについて相談しやすい	75	20	5
保-10	はなしっこルーム(カウンセリングルーム) が設置されていることを知っている	91	3	6
児-15	学校では、自分でやり方を選んで学習や活動に取り組むことができている	84	12	4
教員-8	児童は、自分でやり方を選んで学習や活動に取り組むことができている	80	12	8
児-16	言葉の使い方(相手を傷つけないなど)に気を付けている	80	13	7

※令和6年度アンケートの児童独自項目-6「私は、言葉の使い方(相手を傷つけないなど)に気を付けている」の肯定的回答は89%

#### 基本方針4 保護者、地域と共に育つ教育活動の推進

☆地域との連携は概ね良好。子どもは、地域と繋がり、地域に育てられているようだ。  
☆保護者や地域の学校運営や教育活動への参加・協力が得られている。今後も地域（保護者）と共に、地域の声にこたえる教育活動を大切にして欲しい。  
☆地域に学校の情報は十分に伝わっているようだ。一方で、回答してくださっている方は、限定的かもしれない。もっとたくさんの方のご意見や学校の見え方を本アンケートに反映していきたい。

##### <地域との連携について>

情報提供、教育活動への協力、重点目標の周知・理解は概ね高評価で、地域（保護者）との連携は良好といえる。また、児童の8割以上が「近くのお祭りやイベントなどの地域行事に行くのを楽しんでいる」（児-18）。子ども達は地域と繋がり、地域に育てられている側面が垣間見える。

##### <地域・保護者の協力と望む教育活動>

（保-11）（地-5）「保護者や地域の方が教育活動に協力していることを知っている」は、肯定的回答が保護者9割、地域8割。

（保-7）（地-1）「学校は、保護者や地域の声や願いにこたえる教育活動を行っている」は、肯定的回答が保護者8割、地域9割。

いずれも高評価である。学校の取組は概ね支持されていると捉えてよさそうだ。

##### <学校からの情報提供について>

（地-6）「ホームページやお便りで教育活動の様子を発信している」の肯定的回答は9割以上だが、（地-7）「学校公開や道徳授業などで学校の様子がわかる」は7割強となっている。地域の方は、学校からの情報には目を通し、様子もわかっているようだが、学校公開や道徳授業地区公開講座などの参加は少ないのかもしれない。実際に足を運んでもらうための工夫が必要ではないだろうか。

（地-9）「学校の重点目標が明確である」と（地-10）「通学している子どもたちは交通ルールを守っている」は、肯定的回答はほぼ8割、昨年に引き続き高評価である。

アンケート回答数は昨年度23、本年度21（回収率は46%）。限られた方々の回答なのかもしれない。次年度以降は地域への周知やアンケートの工夫等で、もっとたくさんの方のご意見や学校の見え方を反映していきたいところである。

【基本方針4】 保護者、地域と共に育つ教育活動の推進				
・学校と保護者、地域の役割分担      ・保護者や地域の学校運営や教育活動への参画 ・安心、安全、安定のある学校運営の継続      等				
対象と 番号	内 容	肯定 (%)	否定 (%)	不明 (%)
児-17	地域の方に自分から進んであいさつしている	82	14	4
地-3	子どもたちは、あいさつや望ましい言葉遣いをしている	82	9	9
児-18	近くのお祭りやイベントなどの地域行事に行くのを楽しんでいる	84	12	4
保-7	学校は、保護者や地域の声や願いにこたえる教育活動を行っている	81	9	10
地-1	学校は、保護者や地域の声や願いにこたえる教育活動を行っている	90	5	5
教員-5	学校は、保護者や地域の声や願いにこたえる教育活動を行っている	88	8	4
児-19	保護者や地域の方が学校に協力してくださっていることを知っている（朝の見守り、読み聞かせなど）	92	4	4
教員-9	児童は、保護者や地域の方が教育活動に協力していることを知っている	92	0	8
保-11	保護者や地域の方が教育活動に協力していることを知っている	91	3	6
地-5	保護者や地域の方が教育活動に協力していることを知っている	80	10	10
保-12	学校はホームページやお便りで教育活動の様子を発信している	93	3	4
地-6	学校はホームページやお便りで教育活動の様子を発信している	95	0	5
地-4	学校公開や学校で行われている行事などに参加したい	95	5	0
地-7	学校公開や道徳授業地区公開講座などで学校の様子がわかる	76	10	14
地-8	学校は安心安全な学校づくりを進めている	95	0	5
地-9	学校の重点目標が明確である	81	5	14
地-10	通学している子どもたちは、交通ルールを守っている	80	10	10

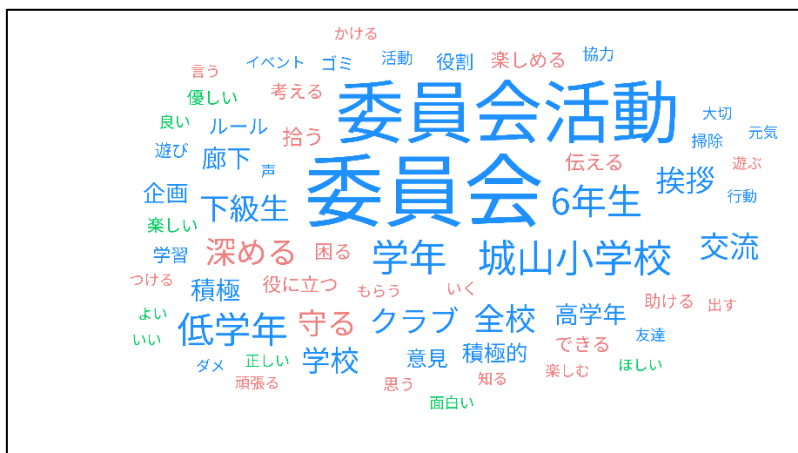
※令和6年度アンケート地域共通項目

4-(1)「学校の重点目標が明確である」の肯定的回答は97%

1-(1)「通学している子どもたちは、交通ルールを守っている」の肯定的回答77%



Q3. 学校をもっとよくするために自分ができると思うことはどんなことですか。



委員会／クラブ／行事：31.1%（「委員会で企画」「クラブ」「イベント」）。  
 交流／低学年支援：18.9%（「低学年を手伝う」「他学年と交流」）。  
 ルール・安全／挨拶・礼儀：各 9.8%（「廊下は歩く」「右側通行」「挨拶をする等」）。  
 掃除・美化：9.0%（「ゴミ拾い」「清掃」「ポイ捨てしない」）。  
 発言・まとめ・リーダー：9.0%（「意見を言う」「まとめる」「率先」）。

【代表的なフレーズ（延べ頻度）

「委員会」「企画」「挨拶」「クラブ」「低学年」「交流」が多く

結果より

1. 理想の学校像は「みんなが楽しく、学年をこえて交流できる学校」「企画や行事で全校が楽しめる学校」
2. 「頑張ってるね」「一緒にやろう」肯定・共感・具体的称賛が動機づけにつながる
3. “自分ごととして動く”意識が見て取れます。

【考察】

①“楽しく・優しい”校風を最重視

学校像では「楽しい／明るい」「助け合い」が最多で、肯定的な人間関係と安心感へのニーズが強いといえます。行事・企画を「楽しむこと」と「全員参加性」の両立を望む声も多いです。

②縦割り・多学年交流は“やりたい”と“できる”の両面で一致

交流は「実現したい学校像」にも「自分ができること」にも繰り返し登場。Buddy 制度／とも遊び／学年横断イベントなど、継続枠として制度化すると児童の意欲と一致します。

③児童リーダーの役割拡大余地

「委員会・クラブで企画」「まとめる・率先」志向が一定数。企画設計→広報→当日運営→振り返りまでを児童主導で回せるよう、ミニ研修（司会・合意形成・タイムマネジメント）の実施も検討の余地がある。

④“言葉がけ”は短くポジティブに

動機づけでは「頑張って／すごい」「一緒に」「ありがとう」等の短い肯定語が実効性大。\*\*指摘よりも“具体的称賛+次の一歩が行動を促します。

#### ⑤生活ルールと美化は“児童発”で

「廊下は歩く／右側通行」「ゴミ拾い」「水道の出しっぱなし防止」など具体行動が挙げられています。掲示・放送・ピクトなど児童制作の視覚ツールにすることで参画感と遵守率が上がります

### あとがき

今年度、教員や保護者・地域の方々から伺ったお話や本委員会で話題になったことから、考えたり感じたりしたことをお伝えします。

○学習や生活の様子を問う、

・(児-9)「自分の考えを伝えようとしている」では、

先生の96%が肯定的回答でしたが、児童は肯定的回答76%、否定的回答21%でした。

教育をする側の熱意と、受ける側の結果や成果は必ずしも一致或いは直結しないことは自明であるものの、この相違は「教え方・導き方が不十分」が原因なのでしょうか。大人が思う以上に子どもは、「もっとできるのに・・・」「もっと頑張らなきゃ」と、自らを律したり、客観的にしかも自分を厳しく見つめたりできるのかもしれませんが、あるとしたら、教師は授業力向上を追究すると共に、「どんなことを言われるとやる気がでるか」への自由記述「頑張ったね」「褒め言葉」「励まし」等にあるような評価の言葉を（現在も十分に行っていることと思いますが、もっと）適時適切に伝えていくことも課題なのかもしれません。

※この傾向は(児-5)「問題を解決するまで、あれこれ試している」や(児-16)「言葉の使い方（相手を傷つけないなど）に気を付けている」でも同様に感じます。

○相談のしやすさを問う、

・(保-9)「学校は、子どものことについて相談しやすい」は否定的回答が20%でした。

これを保護者の方に伺ったところ、「学校に行ったついでに先生に声を掛けようとしたが、忙しそうで遠慮した」との声がありました。同じような思いを持つ方も多いのではないのでしょうか。これに対して児童は、

・(児-14)「自分が感じていることや困っていることを、学校で聞いてくれる人がいる」

は肯定的回答が89%と高評価でしたが、否定的回答6%（=8人）と不明回答5%（=7人）の児童が上記の保護者と同じ思いであったならとても心配です。

都や区は、教員の働き方改革について毎年更新しています。ですが学校現場に「児童・保護者の困りごとや不安な気持ちに耳を傾け、寄り添うための十分なゆとりがある」とは、必ずしも言えないのではないのでしょうか。「学校は、子どもを置き去りにすることがあってはならない」と多くの方が共通に思うでしょう。先生お一人お一人に、余裕やゆと

りが持てることが何より大切で、最大の課題ではないでしょうか。

今年度、区教委から評価項目の大きな変更が示されました。次年度は、学校評価組織が変わるようです。そのため城山小学校関係者評価委員会は、今年度で解散になります。

アンケートのご協力に感謝いたします。また、授業・学校行事を参観させていただいたり、教員や保護者・地域の方々の皆様にお話しを伺ったりすることもありました。ご協力いただきましたすべての方に改めて心よりお礼申し上げます。